

令和5年度地域課題ネットワーク会議 報告

- 1 多摩市地域ケア会議について
- 2 地域課題ネットワーク会議の報告
- 3 来年度の方針案

1 多摩市地域ケア会議について

1 多摩市地域ケア会議について

C 地域課題ネットワーク会議（市全域）

圏域単位では解決できない課題を、市全域で検討する会議。

主催：高齢支援課

B 地域課題会議（圏域単位）

個別地域ケア会議から積み上げた地域の課題を検討する会議。

主催：2層又は包括

A 個別地域ケア会議

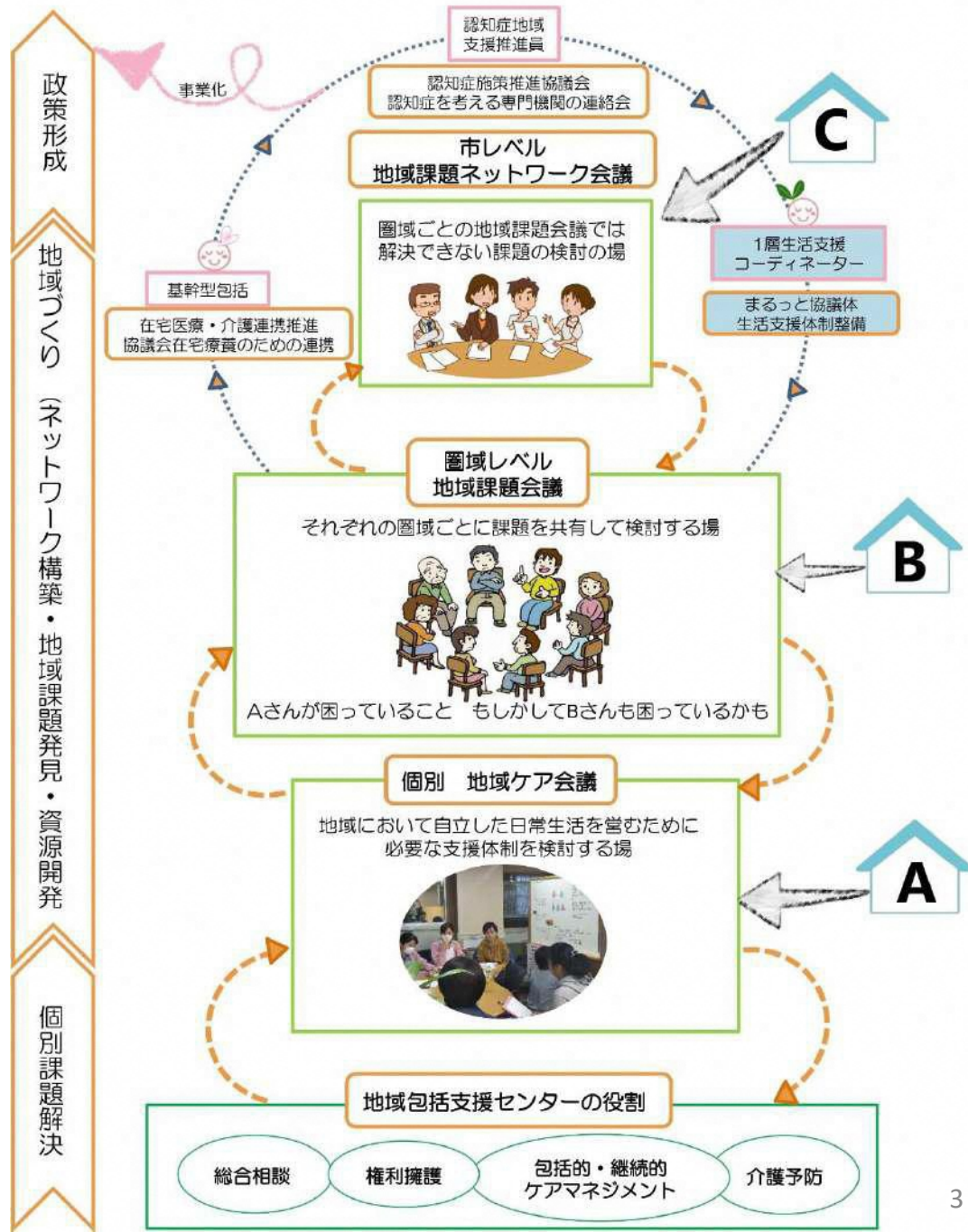
個別ケースについて検討する会議。
目的に応じて、以下の3種類の会議がある。

主催：包括

- ①ぐっとらいふミーティング（自立支援）
- ②にこにこミーティング（本人参加）
- ③らくらくミーティング（本人不在）

(略) 地域包括支援センター：包括
しごと・くらしサポートステーション：くらサポ
第2層生活支援コーディネーター：2層

多摩市 地域ケア会議イメージ図



1 多摩市地域ケア会議について

A 個別地域ケア会議

○ぐっとらいふミーティング

(自立支援ケアマネジメント会議) ※主に軽度者

【令和5年度実施状況(12月まで)】

件数

10

【分析】

- ・全て整形疾患が課題のケース
- ・整形疾患のため身体的介護が必要であったり、家族介護の負担がある
- ・体力の低下による認知機能低下ケースは4割
- ・通いの場につながらないケースが5割

○にこにこ・らくらくミーティング

※主に困難ケース

【令和5年度実施状況(12月まで)】

件数

18

【分析】

- ・精神疾患が約90%。そのうち約75%が認知症
- ・複数のサービスが入っているケースが50%、サービス導入困難のケースが50%
- ・8050ケースであり制度の狭間、障害施策など他分野との連携が必要なケースが8割

1 多摩市地域ケア会議について 令和4・5年度実施状況

B 地域課題会議（圏域単位）

包括	テーマ	参加者
西部	<ul style="list-style-type: none">・ 民生委員に対する認知症やMCIの普及啓発・ 徘徊ケース対応方法の検討	<ul style="list-style-type: none">・ 民生委員・ 2層・ 高齢支援課（基幹）
東部	<ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍の困りごとについて・ 認知症の方が安心して過ごせる地域づくり	<ul style="list-style-type: none">・ 民生委員・ 2層・ 高齢支援課（基幹）・ 特養
多摩C	<ul style="list-style-type: none">・ 高齢者が地域のつながりを持つためには・ 医療・介護連携の課題について（R5）	<ul style="list-style-type: none">・ 民生委員・ 2層・ 高齢支援課（基幹）・ 警察・ ケアマネ・ 病院相談員・ 在宅療養窓口
中部	<ul style="list-style-type: none">・ アフターコロナにおける支援、見守り名簿の活用について・ 高齢者の見守り活動について	<ul style="list-style-type: none">・ 民生委員・ 2層・ 高齢支援課（基幹）・ 見守り相談窓口
北部	<ul style="list-style-type: none">・ 民生委員と各地区の特性と課題を共有して今後に活かす	<ul style="list-style-type: none">・ 民生委員・ 2層・ 高齢支援課（基幹）・ 見守り相談窓口

・ 令和4年度はコロナ禍で情報共有ができていなかったことから、民生委員連絡会を地域課題会議と兼ねて実施した。

・ 地域での解決のために必要な課題として、**8050世帯の発見困難**、担い手不足による見守りが困難、**狭間のケースにおける他分野との連携**があげられる

2 地域課題ネットワーク会議の報告



テーマ：高齢部門における8050ケースの相談支援や課題について

事前 アンケート

…包括職員を対象にアンケートを実施 ⇒ 「50側が支援に繋がらない理由や課題」

- | | |
|--------|---|
| ① 発見困難 | 早期発見や緩い見守り、アウトリーチ機能が無い。専門部署や制度がない |
| ② 連携不足 | 関連部署がお互いの制度に関する理解不足があり、支援に苦慮する |
| ③ 業務量増 | 80側と関わることでケースを発見することが多く、年々件数が増え業務負担が増加している。50側とどこまで関わればよいかなど、役割が明確でない |

目標(目指すところ)

- ① 包括とくらサポの8050ケースの対応状況を共有し、**課題の抽出・整理**を行う
- ② 事例を通して介入や支援のポイントを学び、**包括職員のスキルアップ**を目指す

- 手法：① 多摩市版地域包括ケアネットワーク連絡会での、支援会議の事例を説明
② くらサポの業務内容説明
③ 事例を通じた、グループ討議 課題の抽出・整理

結果(まとめ)

- ① 8050ケースの対応状況、くらサポの役割について理解を深めた
→高齢支援課の地域ケア会議と福祉総務課の支援会議の「目安表」作成予定

- ② 8050ケースに関連する課題を整理し、役割分担を行うことができた
→高齢部門としては「他機関連携」を中心に進めていくことが必要

- ③ 包括を対象とした研修のテーマを定めることができた
→9/20「発達障害」1/31「依存症(アルコール・ギャンブル等)」テーマとして決定
講師：雷門メンタルクリニック伊波 真理雄氏



日時 令和5年7月28日 10時～12時 市役所301会議室

参加者 高齢支援課／福祉総務課／しごと・暮らしサポート
(計25名) ステーション／地域包括支援センター

3 来年度の方針案

3 来年度の方針案



地域課題ネットワーク会議（市全域）

○今年度の地域課題ネットワーク会議で整理した課題

□ 課題が複合化・複雑化している

- ・ 8050ケースは課題が複合化・複雑化しているため、**他分野との連携が必須**

□ 制度の狭間にある課題

- ・ 支援を拒否されると、今後支援が困難になると予測される場合でも介入・予防ができない
- ・ 民生委員の友愛訪問や見守り相談窓口訪問の対象外のため、**早期発見・介入が困難**

□ 支援者の課題

- ・ **関連部署における制度の相互理解が不足しているため、支援に苦慮する**
- ・ 包括が8050ケースを発見し、50側をつなぐまでの業務負担が大きい

3 来年度の方針案（地域課題ネットワーク会議）



地域課題ネットワーク会議（市全域）

方針案

高齢部門においては、多世代困難ケース支援の“第一歩”として

- 8050事例を通じた他分野との相互理解促進（庁内部門を中心として参集者を拡大）
- 「制度の狭間」の見える化と役割分担



テーマ案：高齢部門における8050ケース支援課題 — 多機関連携 —

～ 多機関連携を円滑にするために、それぞれの機関の役割・可能な対応について学ぶ～

参集者：地域包括支援センター／高齢支援課／障害福祉課／生活福祉課／福祉総務課
しごと・くらしサポートステーション／保健所／権利擁護センター
※庁内部門を中心に参集

以上